

目次

- 会長挨拶
- 会員寄稿
- 動物愛護フェスティバルのレポート
- 動物愛護関係講習会のご報告
- DMSO 交流会のご報告
- 『里への便り』募集
- ボランティア説明会のご案内

■ 会長挨拶

DMSO 会長 平澤 敦司

DMSO 会員の皆様こんにちは。

日頃より会員の皆様にはDMSO の活動にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

DMSO は平成9年に発足以来、動物愛護指導センターでの譲渡事業のお手伝いや会員の皆様への情報提供など皆様が愛犬等との楽しい日々を過ごせるよう活動をしてきました。

活動内容としては、譲渡会で新しい飼い主さんへもらわれていく子犬のシャンプーボランティアやパピートレーニング1・2及びドッククラスのサポートなど、交流会では愛犬との楽しい時間をすごせるよう昨年に引き続き『秋のわんわん運動会』を開催、昨年の交流会では14頭のワンコと飼い主さんが参加して頂きだいぶ好評だったので今年は時間を延長し18頭のワンコと飼い主さんの申込みがあり、当日急用で参加できない方もでて16組が参加され各種競技に楽しみながら取り組みました。競技内容はワンコのしつけ等を加味し、うまくワンコのコントロールし飼い主さんもワンコも楽しい時間が過ごせたと思います。

講習会に関しましては近年国内をはじめ大地震や大雨に伴う洪水など自然災害が発生しており、いつ何時自分や愛犬愛猫などペットが被災する可能性があります。

大きな被害が発生し避難を行う際、ペットオーナーさんはどの様に対応するか、普段から災害避難に関しての心構えなど『自分とペットの防災対策』についての講義を2月に行いました。

令和6年7月1日より栃木県動物愛護指導センターHP内にDMSO 専用ページを開設しました。内容は譲渡会やパピトレ、シャンプーボランティアの日程や活動報告の記載など、今後内容も色々検討していきますので宜しくお願いします。

これからも、DMSO では会員の皆様と愛犬が末永く楽しい生活が出来、又皆様が地域の模範的な飼い主になって頂けるよう活動を続けていきます。もし何かわからない事や知りたい事や困った事、また、DMSO のボランティア活動に興味がある方はDMSO 事務局までご相談してください。

今後の活動に役立てていきたいと考えております。宜しくお願い致します。

■ 会員寄稿

会員様に事務局より寄稿を依頼しました。

<愛犬ルークからのバトン>

杉山 多佳子

我が家には、4冊の愛犬のフォトブックがあります。愛犬を見送るたび、ともに過ごした日々を写真とともに書き留めていたものを1冊にまとめ、折に触れ読み返しています。

旅立っても尚、どの子もかけがえのない家族になっています。今回は我が家の大切な家族についてお話しさせていただきます。



フォトブック



初代 Luke ルーク

●はじめての「犬」という家族

私が生まれて初めて、一緒に暮らす「犬」と出逢

うきっかけになったのが、2006 年3月の動物愛護センターでの子犬譲渡会への参加でした。

我が家に迎えた生後3ヶ月の「Luke（ルーク）」が家族になってから、常に家族の中心的存在に君臨していきました。散歩でのひっぱり癖に手を焼き、好みの食事を探ることに苦戦しながらも、次第に互いの思いが分かり合えるようになっていきました。散歩をしながらルークのゆるやかに流れる毛並みを見ていると、日頃の悩みや心配が浄化されていくようでした。「癒し」の言葉では言い尽くせないほど、ルークの存在はかけがえのないものになっていきました。

そんな月日を過ごしていたルークが5歳を過ぎた頃、左後脚前十字靭帯断裂。半年を過ぎた頃、今度は右後脚前十字靭帯断裂。12歳で脳梗塞発症。糖尿病のため家で毎朝夕のインシュリン注射投与が始まりました。13歳を迎える寸前、左後脚に肥満細胞腫が見つかり、切除するも半年後には転移。静かに彼の犬生の幕を閉じることとなりました。

●ルークがいない生活

生活の中心にいた大切な存在がいなくなることの喪失感は、毎日の暮らしから色彩を失うような思いでした。ルークと歩いた道を歩けなくなりました。ルークと行った公園の横を通るときは、公園の風景から目を逸らすようになりました。犬を連れて歩く人を避けるようになりました。大切な家族を亡くした体験を題材にした本(脚注*1)を読んだり、撮りためた写真を見返してみたりする日々が続きました。

そんな時、ルークが元気だった頃に出逢った詩「犬の遺言」(脚注*2)のことを思い出しました。「可哀想なひとりぼっちの野良犬に／ボクの幸せなお家を譲ります」ルークだったら間違いなく同じことを望むだろう。ルークの遺言を果たしていこう。悲しみから一歩踏み出すきっかけは、この一節でした。

●新しい「家族」を迎え見送って

子犬や若い犬は新しい家族が見つかりやすい反面、病気や年齢、体の大きさを理由に、幸せの一歩を踏み出せずにいる子たちが大勢います。ルークだったらどう考えるだろうか、そして自分を含めた家族の年齢や体力、ともに過ごせる時間の長さ等を考

え、継続的な医療ケアが必要な子や老犬を迎えたいと考えるようになりました。

譲渡犬の場合、これまでの飼育環境の情報が乏しい状態で迎えることが多々あります。シニア期に入っている子の場合は、日々変化していく食事や運動への配慮も必要でした。歩きづらそうであれば補助具を作り、散歩が難しくなればカートに乗せて外の空気や音を感じてもらうようにしました。1週間に一度、多い時には毎日の通院もありました。それでも、シニアらしい愛らしさや何気ない仕草から私を信頼してくれると感じられたこと、愛犬の思いを推しはかることは、後になってみるとかけがえのない輝きに満ちた時間だったと感じます。

ルークが旅立ってから今日までの5年間、3頭のシニア犬を迎え看取ってきました。一緒に過ごせた時間は長くて2年半、短い子は4ヶ月弱のこともありました。時間の「長さ」より思いの「深さ」が絆を深めてくれました。そして今、我が家には昨夏に迎えた5代目おばあちゃん犬「いと」がいます。



2代目ふく



3代目 Noah ノア



4代目 ことね



5代目 いと

●愛犬との経験をつぎの生命へ

最初はルークからの遺言に応える思いが強かった私ですが、今は出逢った子たちが心ゆくまで犬生を全うできるよう手伝いたいと思うようになりました。

愛犬との別れに慣れることはできません。寂しさは何年経っても消えることはありません。それでも介護を含めた最後の最後まで一緒に頑張れたと思えることで、愛する子が最後に目を閉じる時に「お互いよく頑張りましたね。」と誇りを持って見送れ

るようになってきました。

動物と暮らすことは、その子の生命を預かること。
家庭を必要としている子を迎えることが、愛犬たち
からの生命のバトンをつなぐことになる信じて
います。

文章中脚注説明

*1「猫がいなけりゃ息もできない」村山由佳、「虹の橋から
きた犬」新堂冬樹

*2「犬の遺言」 作者不詳

人間は死ぬとき、
遺言を書いて、
愛する人に全てを残すという

ボクにもそういう事が
できるなら、こう書くよ

可哀想なひとりぼっちの野良犬に
ボクの幸せなお家を譲ります

ボクのフードボールや
豪華なボクのベッドも
柔らかい枕もオモチャも

大好きな（飼い主の）膝の上も
ボクを優しく撫でてくれるその手も
優しい声も

今までボクが占領していた
あの人（飼い主）の心も
あの人（飼い主）の愛も…

ボクに穏やかな
最後を過ごせてくれたその場所を

ボクをギュッと抱きしめてくれた
そのぬくもりも。

ボクが死んだら、
「こんなに悲しい気持ちになりたくないから
もう二度とペットとは暮らさない。」
って言わないで

その代わりに、寂しくて、
誰も愛してくれる人がいない犬を選んで、
ボクの場所を
その子にあげてちょうだい。

それがボクの遺言だよ。

ボクが残す愛…

それがボクが与えられる全てだから

<譲渡犬「芽出（めい）」との思い出>

谷口 和代



『子犬が来たよ！』

愛護センター譲渡会の抽選会。何度も足を運んで
この子犬と決めたのに 2 度も外れ、3 度目の縁で
巡り合ったのが那須森林生まれの女の子(日本犬系
MIX)でした。

「あなたのご先祖はどんな犬種？」「どんな所で
生まれたの？」手の中の不安そうに震えるあどけな
い子犬に語り掛け、幸福の世界に芽吹き成長するよ
うに「芽出（めい）」と名付けしっかり育てる決心を
しました。

ところが抱こうとすると体がカチンカチンに固
まり、体を触ろうとすると逃げだし、他人や他犬に
は近寄らないでーと吠えかかる。

今まで飼育したことのない警戒心の強さ、日本犬種
特有の触られるの苦手タイプで、これからどのよう
に接していけばよいのか思案の毎日でした。

『一緒に勉強していこう！』

かねてから愛犬のためにしつけの勉強をしたい
と考えていましたが、当時知り得た犬のしつけ方は、
厳しい接し方、又テクニックも必要なため私にはと
ても無理に思えました。そして知ったのは日本動物
病院協会が薦めていた『ほめてしつける』方法でし
た。

今まで日本に無かった手法で、科学的に犬の習性
を理解し、犬にやさしいしつけ方を飼い主に伝えて
くれる指導法でした。

栃木県動物愛護指導センターでもこの手法を取り入れてパピーや成犬トレーニングレッスンのクラスを設けて指導してくれていました。

素晴らしい！とにかく犬が楽しそうだ。この手法だったら私にもできるかもしれない、芽出も受け入れてくれるかもしれないと確信しながら勉強していました。

『芽出ちゃん一緒に勉強しよう！』

日常の動作一つ一つが勉強でした。

＊お散歩は音や人に慣らすために学校や駅周辺など様々なところを歩きました。

＊他人や他犬に吠えることも「おいで」「ハウス」など教え、そばにいた方が安心できることを教えました。

＊苦手な抱っこは、こちらからの一方的なアプローチではなく、自ら膝の上に乗ってこられるよう「ジャンプ抱っこ」を教えました。

芽出は少しずつ基本動作を覚え、私の指示を受け入れてくれるようになりました。

コミュニケーションが取れるようになると自信を持って行動するようになりました。

そしてしつけ教室や歯磨き講座のデモ犬、地域の防災訓練（同行避難）展示のデモ犬など、私と一緒にお仕事をしてくれるようになりました。

『一緒に勉強したことを皆に伝えるよ！』

9年間、芽出と二人三脚で歩んできたワンライフでしたが、私が一人前になれそうなのを見届けるかのようにして1年間の闘病の末虹の橋を渡っていました。

栃木県動物愛護指導センターでのめぐり逢いから始まり、センターのイベント企画（愛犬との運動会、ヨガ教室など）でたくさんの思い出をつくることが出来ました。DMSOのメンバーさん達は悩みを聞いてくれ、不安な気持ちをカバーしてくれるように細やかなお世話をしてくれました。

我が家に譲渡犬はいなくなりましたが、芽出との経験を生かしてDMSOのボランティアを続けて行こうと思います。

皆さんも愛犬との時間を大切に思い出をいっぱい作ってくださいね。

■ 2024 とちぎ動物愛護フェスティバルのレポート

開催日：令和6(2024)年9月23日(月・祝)

場 所：オリオンスクエア(宇都宮市)



今年度のフェスティバルは盲導犬や警察犬&災害救助犬、移動動物園・移動水槽とたくさんの動物たちも参加し、大盛況で終了しました。

また、動物愛護推進員ブースでは皆さんのお仲間であるDMSO会員の方にも御協力いただき、日頃からの所有明示の大切さを啓発するため、来場者の方に迷子札作りを体験(40名)していただきました。

会場内では指定箇所を巡ってのクイズラリーを実施し、313名とたくさんの参加をいただきました。

今年度の新企画「動物〇×クイズ」には、簡単な問題や超難(珍)問に101名の参加者が挑み、楽しく好評を得て終わりました。

ぜひ、会員の皆様も次年度2025年9月のフェスティバルに立ち寄っていただけると幸いです。

■ 動物愛護関係講習会のご報告



開催日：令和7(2025)年2月9日(日)

講 師：平井 潤子 先生

(NPO 法人アナイス 理事長)

テーマ：「もしもに備える

自分とペットの防災対策」

近年、地震や大雨による自然災害が多発しており「ペットの同行避難」や「ペットとの避難生活」が注目を集めていることから、今年度は、「自分とペットの防災対策」をテーマに平井先生に御講演いただきました。

先生は、NPO 法人アナイスの理事長であり、災害時に飼い主と動物が同行避難し、人と動物がともに調和して避難生活を送るためのサポートや避難時の問題解決のための、知識や情報の提供を行う活動をされています。また、災害時には国や自治体と連携し、被災地での動物救護活動等も精力的に行われています。昨年1月に発生した「能登半島地震」での

ご経験も交えて御講演をいただきましたので、内容をご紹介します。

【今、自分が被災したら・・・】

日々、いろいろな場面で、今被災したら？と想像し、行動を考える脳内トレーニングをしておきましょう。

【ずっと同伴避難できるか？】

最初は混乱の中、同伴避難した避難所も、落ちていくと居心地の悪い場所に変わる場合があります。飼っている人、ペットが嫌いな人、ペットのストレスがきしみ合うのです。車で同伴避難をしたくなるのもこのためです。飼い主がペットを避難所に置いて仕事や片付けに出かけるときには、残ったペットを共助で助け合うことも必要になります。

【同伴避難に備える】

避難所で起こりそうなことを事前に想定しておけば、備えておくべきことが予測できます。ペットをしつけておく（人慣れしている 他人がいてもおとなしい）、ハウストレーニング(クレート内で過ごせる)は重要なことになります。

【災害を想定した避難パターンを】

自宅（在宅）避難、分散避難、同伴避難等ありますが、人が安全でペットにとってストレスの少ない避難を選択することが大切です。環境への配慮や飼っていない方への迷惑やストレスを考慮に入れ、日頃からペット仲間と協力して人間とペットのセーフティネットの確保を準備しておきましょう。

【自宅での安全チェックと備蓄】

ペットにとって安全な自宅環境は人にも安全です。家具の転倒防止、窓や家具のガラス戸の飛散防止、留守番中のペットの危険防止配慮(安全な置き場所、逃げ込み場所)を見直しましょう。飼料やシーツなど備蓄品は1ヶ月分持ち、在庫品から使用するローリングストックを行い消費とストックを両立しましょう。常用薬や療法食のストックも必要です。キャリーバック、首輪、リードは劣化しますので点検が必要です。

【ペットの記録は携帯電話で】

ペット、首輪、迷子札の写真を携帯で残しておきましょう。MC 情報や病歴・使用薬を携帯メモに残しましょう。もしもの時に備えて、迷子ポスターもある程度完成させておくといつでも使えます。

【避難中のペットの観察】

避難中のペットはストレスも高まります。おとなしいとおかしいは違います。異常と感じたら動物病院へ相談しましょう。食欲が落ちた際のため嗜好性の良いウェットフードを備蓄しておくに役立ちます。

【避難所での飼っていない人への配慮】

飼っていない人は、動物やフードのにおい、毛、鳴き声、排泄行為、排泄物に敏感ですので、飼い主同士で共用施設の衛生管理や動線決め、目隠しで配慮に努めることが重要です。

【「飼い主力」と「防災力」とは？】

何が必要かを考え、工夫する力をいいます。日頃から準備していても、現実には通用しないこともあります。置かれた場所、あるもの、いる人間でなんとかしなくてははいけません。限られた人、もの、場所を活かして災害を乗り越える強い気持ちも必要です。

【災害現場では、飼い主同士の助け合い】

講習の締めくくりに、先生は、「大切なことは、家族の一員であるペットを守るために被災者という受け身ではなく、自立して「飼い主力」を発揮し、助け合うことが、「防災力」を高め、あなたと家族と地域を守っていく。」とおっしゃっていました。

ペットも人も安全に避難して、飼っていない人とも災害を乗り越えていけるそんな社会の実現を目指して、日頃から考えておくことの重要性を感じました。この講習会から得た情報や飼い主の心がけを実際に活かし、もしもの時に備えていただければと思います。



■ DMSO 交流会のご報告

開催日：令和6（2024）年10月27日(日)

講師：藤川 裕子 先生

JAHA 公認家庭犬しつけインストラクター

テーマ：秋のわんわん運動会

毎年恒例、DMSO 交流会を今年度も開催しました！昨年好評を得た運動会を、参加者を増やすために時間を延長して企画しました。当日は天気にも恵まれ、16組30名(16頭)の会員の方にご参加いただきました。今年も赤組、白組の2チームに分かれて、待てやお座り等のしつけを盛り込んだゲームで愛犬と力を合わせて対戦しました。

秋のわんわん運動会プログラム

- 1 準備運動
- 2 障害物リレー
- 3 しっぽ付け！？ゲーム
- 4 一緒に運んで！競争
- 5 玉入れゲーム
- 6 結果発表＆表彰式

これまでしつけ方教室で習った事を準備運動で確認しながら復習していよいよ競技開始です！

先生が工夫を凝らした競技は、どれも一生懸命やらないとクリアできない内容で、汗をかきながら愛犬、チームと力を合わせ1時間半があっという間に過ぎました。

最後の玉入れは、玉を受ける器が3種あって、点数の高い小さな器にうまく投げ込めた方々が高得点をゲットしました。

優勝した組は優勝賞品を、残念ながら負けた組は参加賞をもらい楽しい交流会も無事に終了しました。



わんわん運動会の集合写真です

■ホームページで『里への便り』募集

3月より、当センターから譲渡を受けた方からの近況報告を電子申請で募集します。詳しくは当センターホームページでご確認ください。

■ DMSO ボランティア説明会のご案内

DMSO 会員の方を対象に、動物愛護指導センター事業のボランティアを募集しています。ボランティアに参加してみたい！ボランティアに興味はあるけれど、どんなことをするの？どうやって参加したらいいの？という方に、ボランティア説明会を開催いたします。参加は迷っているけど話だけ聞きたいという方も大歓迎です！皆様のお申込みをお待ちしています。

日時：令和7(2025)年3月2日(日)

午前11時00分～午後12時00分

場所：栃木県動物愛護指導センター 愛護館
レクチャールーム

申込：栃木県電子申請システム

申込期間：2月15日(土)～2月28日(金) 17:15

右のQRコードから
お申込みできます



令和6(2024)年度ボランティア事業活動実績

(令和7年1月末現在、括弧内参加延べ人数)

- ・子犬譲渡会 : 1回(1名)
- ・子犬のシャンプー : 9回(35名)
- ・パピートレーニング1 : 7回(23名)
- ・パピートレーニング2 : 3回(10名)
- ・ドッグクラス : 1回(2名)

令和7(2025)年度

DMSO シャンプーボランティア日程

4月13日(日)	5月9日(金)
6月1日(日)	7月4日(金)
8月3日(日)	9月5日(金)
10月5日(日)	11月7日(金)
12月7日(日)	1月9日(金)
2月1日(日)	3月6日(金)

■お知らせ

- ・DMSO ロゴ入り反射板の同封送付

皆さんからの会費にて、DMSO ノベルティグッズを製作しました。夜間外出時の交通事故防止のためカバンなどにつけてご利用ください。

今後に新加入される方にもお渡しします。



発行日：令和7(2025)年2月

発行者：譲渡犬等飼い主の集いの会 (DMSO)
会長 平澤 敦司

事務局：栃木県動物愛護指導センター内
〒321-0166 宇都宮市今宮 4-7-8

電話：028-684-5458

Fax：028-684-5926

